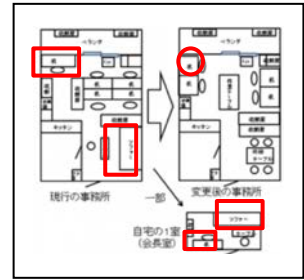


「変革の四月」

1. 事務所を2ヶ所に分散

右掲は、弊社の事務所を2つに分散するレイアウトです。左は旧事務所で平成9年に購入して社員の増加に応じてレイアウトして来たものです。左上に私の机があり、中央に4つの机の島があります。現状は、三男と2人なので緊張感がなく、書斎的に私物があります。この私物が多い事で、整理整頓がルーズになっており、他人の目がないのでマンネリ化しているのです。2025年に事業承継と決めています。人を雇う状況に戻す必要があります。とりあえず、私の机関係を自宅に移し、ガラッと空間を設ける為に机を壁向きに2つずつ配置して、真ん中に作業テーブルを置くようにしました。この案なら新規に購入するのは作業テーブルと応接セットで済みます。また、作業テーブルなので空間的に広く感じる事が出来て良いのですが、課題は収納ですが紙媒体は電子化する方向でいます。



3月20日と21日に移動を済ませましたが、多くの物を処分しました。創業26年の重みですが、古いお客様の資料を思い切って処分しました。また、本社は移さないで郵便物はそのまま届きますが、毎日、自宅へ持ち帰ることにしました。新聞も自宅の方に届けて頂くようにして、出来るだけ外部からの物が残らないようにしました。実感として、郵便や新聞が大きなウェイトを占めており、郵便物も公的な物と企業や団体からの物に分かれ、不要不急な物が多く滞留しており乱雑化していたのです。自宅でせつせとシュレッダーする習慣を身に付けて整理整頓を実践したいと思います。

また、自宅用に1台パソコンとFax機能付きプリンターを購入しました。これでリモート環境が整ったので在宅勤務が可能になりますが、自宅と事務所は直線で500m程なので、朝9時～11時、午後2時～4時をコアタイムにして2往復する習慣で「運動」x「食事」x「社会性」⇒「健康」という公式を継続して行きたいと考えています。当分の間は、空いている机を利用して仕事をして、自宅へはメールやUSBでデータ交換して、少し手間がかかりますが業務がシームレスに継続できるようにしたいと考えています。

2. 変革の四月

私は、昭和48年に関学の商学部を卒業してトヨタ系販売店に入社しました。ここで2人の恩人に出会ったのです。一人は当時病弱だったが「コンピュータをやりたい」という私の願いを頭が良いというだけで採用して、オイル・ショック下で売上が半減する中、トヨタ自動車も反対する中、IBMが世界初のオフコンとして発表した物を「俺のポケット・マネーで買ってやる」と言って導入して「クルマが売れるコンピュータ」という永遠のテーマを頂いた故福井社長で、この使命を船井流を織り込んでNASAマーケティングとして今日に至るまで貫いて来ました。もう一人は公文式をアメリカに伝導して公文USAを立ち上げられた故十河専務です。十河専務からいろいろな事を学びましたが、入社して1年が経過した時、「とっちゃん、新入社員が入って来るがこの1年でどれ位成長したか」と尋ねられて1年を回顧する習慣ができたのです。「回顧と反省そして展望」という習慣です。これを独立してからは「変革の四月」と名付けて継続しています。

今年、大きく変革するスタートの年と位置付けており、前項のように現在の事務所から□で囲んだ2つ(机とソファー)を自宅へ移動して一室を将来的に会長室として使うようにして、今の事務所の空間を大きく空けて、4つの机を壁側に向かわせて中間に作業テーブルを置くようにしてスッキリとさせたいと思っています。計画では7月から社員が返って来るので事務所らしくリフレッシュする事を願っています。もちろん、私も○の所に座り事務しますので余り大きくは変化しませんが、将来的にはオンライン時代を実践で在宅勤務にする心算です。また、地域貢献の一環として水曜日は早帰りデーにして晩の7時から老人会の会場場所として提供するので「断捨離」を徹底して他人の目に晒されて整理整頓を徹底したいと思っています。

3. 区切りとスイッチ

右掲は、私が「成功の方程式」と名付けた有名な4行訓です。この4行のスタートは文字通り1行目であり、「心」にスイッチを入れて「行動」に移す事なのです。多くの方は「心」でいいなあと思ってもいろんな事情があって行動に移せないのですが、私は、スイッチを入れて行動に移す方です。前項の机の移動は、ある時、パッと思いついたのです。ブログでは2月22日に「2025年事業承継の計画」として記事を書いています。この閃きを実行して、「変革の4月」を実現しています。参照：<http://amiami.txt-nifty.com/blog/2021/02/post-b3e59b.html>

成功の方程式
心が変われば、行動が変わる
行動が変われば、習慣が変わる
習慣が変われば、人格が変わる
人格が変われば、天命が変わる
作者不明の4行訓

このように書くと「あなたはいいですね」という声が聞こえそうですが、変化する事はリスクを伴いある程度の資金も必要になるので決断するには「自分で出来るか」という問いから始めます。右掲は故船井先生の「本物の4条件」ですが、まず、自分がワクワクして、その効果が期待できて、しかも金銭的にムリがなく、しかも、周りに迷惑をかけないかと自問自答です。これは、お客様から相談を受けた時にも判断する基準であり、それを自分自身が支援できる範囲内なら迷わずに即実行とお応えして促すようにしています。

本物の4条件
1. ワクワクする
2. 卓効性がある
3. 経済的である
4. 副作用がない
故船井先生

しかし、例えば、「変革の4月」というように節目に「回顧と反省」を行い、次の年を「展望」という区切りの時には、必ずしも大きな変革を行うという訳ではありません。人は本来「怠け者」なので区切りをハッキリさせてメリハリのある人生を送る事が大切です。つまり、心にスイッチを入れる事から変化が始まるのです。その変化は「身の丈」に応じた事ならば、実現する可能性が高いのです。マラソンの君原健二さんは「紙一重の薄さも重なれば本の厚さになる」とおっしゃっているように少しずつでも継続する事が大切なのです。変化するには未体験の壁が待っていますが、とりあえずの取組で壁を低くして取り掛かる事で弾みが付き実現に向かえるのです。

4. 「断捨離」でスッキリ

今回、「変革の4月」で事務所のレイアウト変更と机・ソファの移動を行いました。肝心な事は26年間に溜めている書類や備品の整理です。「物は安定すると居座る」と改善の格言がありますが、お客様の資料や書籍・備品が長い間使わないにも関わらず沢山あるのです。「断捨離」は有名ですが、まず「捨」てる事から始める必要があるのです。幾ら重要だと思っても26年前の物もあるのです。ハウツウ本は次の時代に役立つ可能性は殆どゼロなので、今回、思い切って捨てる事にしました。お客様の資料も殆どがデータで残っているのでシュレッダーして廃棄しました。こうして、古い物が居座る事から脱出しようとしています。

次に、順序が逆ですが「断」です。まず、新聞を自宅に入れてもらうようにしました。さらに、郵便物は本社を変えないので、毎日、必要な物を自宅に持ち帰り、事務所には必要な物だけを残すというルールに決めました。従って、自宅にもシュレッダーを買ってドンドン捨てる事にしました。本当に残さねばならない書類や本って、殆どないと実感しました。

最後は「離」ですが、本来は物から離れる事ですが、今回は自分がキレイになった事務所と自宅と往復する事から始めます。これは、「運動」x「食事」x「社会性」⇒「健康」という信念に基づいています。私は、妻に先立たれていますので一人暮らしなので、「社会性」をどのように築くかが課題です。事務所で若い人たちと交流する事で若いパワーを頂けますが、邪魔になって「老害」になってもいけないのです。将来的には、オンライン時代なので、事務所に顔を出して雑談して若い人たちの成長を楽しみ、郵便物などを持って帰り、自宅でオンラインで仕事をするという姿を想定しています。このようにして「百歳現役」を目指したいと思います。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】